シルバー新報 2018年9月21日

（第３種郵便物認可）

「福祉用具の日」のイベント❷

「福祉用具の日」の普及活動として、全国各地で関連イベントが開催されている。10月分のイベントは次の通り。

○岩手／10/15／福祉用具の日推進事業／特別講演会（二部構成）、福祉用具展示会／いわて県民情報交流センターアイーナ／共催等：岩手県介護支援専門員協会他

○宮城／10/27／福祉機器展示、福祉用具関連セミナー・講演会（腰痛予防、安全性、認知症、ＷＬＢ）／仙台市シルバーセンター／共催等：仙台市健康福祉事業団他

○神奈川／10/17／普及啓発事業／福祉用具の展示、介護保険相談等／横浜そごう入口イベントスペース

○石川／10/13／いしかわ介護福祉フェスタ／福祉機器・介護ロボットの展示説明／石川県産業展示館／共催等：石川県

○兵庫／10/7／第29回こうべ福祉・健康フェア／福祉用具メーカー・貸与事業者12社による展示、高齢者体験による身体特徴の説明／神戸市北区しあわせの村体育館／共催等：神戸市シルバーサービス事業者連絡会

○佐賀／10/28／福祉用具の日推進事業／福祉用具の展示・説明／佐賀県在宅生活サポートセンター／共催等：佐賀県在宅生活サポートセンター

○長崎／10/27／福祉用具・機器展in佐世保／福祉用具・機器等の展示、説明会、講師による研修会／サンアビリティーズ佐世保／共催等：ふくせん長崎県ブロック他

○宮崎／10/20／福祉用具スキルアップセミナー／セラピストによる福祉用具専門相談員、介護福祉士等を対象にした、福祉用具を使用しての最新介護技術スキルアップセミナー／宮崎県福祉総合センター／共催等：宮崎県高齢者総合支援センター

○鹿児島／10/5～6／福祉用具の日2018・福祉機器展＆セミナーinかごしま（快護生活フェス！）／福祉機器展示、セミナー・講演会／かごしま県民交流センター／共催等：鹿児島県社会福祉協議会他

（※11月分は次号で紹介）

「EGAO link」業務改善で成果

ナースコール センサー 記録ソフト
スマホ1台で管理が便利

「EGAO link（エガオリンク）」は、ナースコール、介護記録ソフトをスマートフォン1台で扱えるようにしたシステムだ。発案した介護付き有料老人ホームを運営するアズパートナーズ（千代田区、植村健志社長）では、業務効率化だけでなく、質の向上の効果も証明済みだ。「業界標準にしていきたい」と普及に力を入れている。

つながっているのは、データシステム）。ナースコールの呼出し信号を「眠りSCAN」（パラマウントベッド）、ナースコール「Vi-Nurse」（アイホン）、介護カルテシステム「CAREKARTE」（富士通）と専用のナースコールアプリを使うことで、ナースコールもスマホ（iOS）で使えるようになっている。

2017年に「アズハイム町田」で初導入。現在、6棟で導入済みだ。ホームは全室個室で、居室内でのケアが中心。夜から朝にかけて4～5回、定時巡視し、安否を確認するのがルールだったが、「眠りスキャン」の導入により変更。定時の訪室はせず、目を覚ました時に訪問するようにした。転倒のリスクが高い人には、ベッドの上で起き上がった時など状態像を個人の状況に合わせて選びアラートを設定。1日中、見守っている。ケアを行ったらその場で記録。居室から居室への移動の合間にも、ナースコールへの対応ができる。「導入していない施設には異動したくないという声も聞かれるほど職員には好評です」

同社広報・営業企画グループマネジャーの木戸岡大輔氏は話す。

手書きで、転記も多く手間がかかっていた記録業務は1日8時間分あったが、介護カルテとスマホの導入で0・8時間に激減。起きた時点で居室に訪問するなど「待つ」だけの対応でなくなったことにより、ナースコールでの呼び出しも12時間が5時間に減少。

職員の手の空いた余裕の時間は、生活リハビリに活用した。自分で車いすをこぐ練習や、ちょっとした運動に取り組んでいる。その結果、町田の施設では1年3カ月で60人中19人のADLが改善。個別のアクティビティの時間も増えた。人件費の削減効果で、導入費用の2千万円は2年で回収できると計算した。

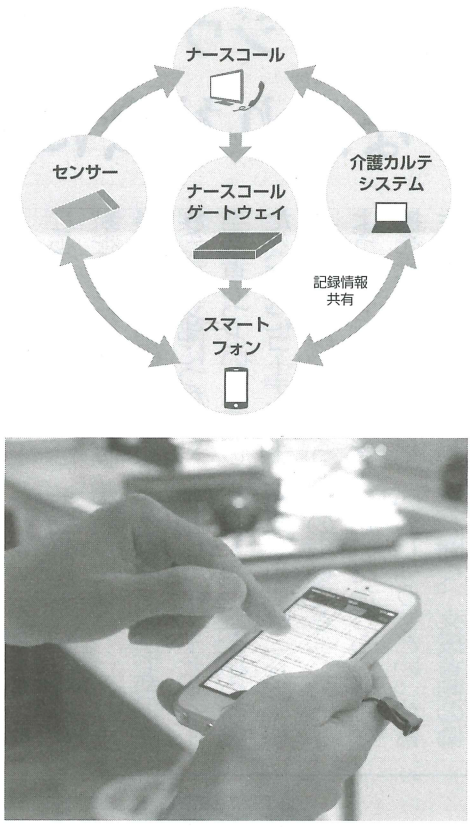
「人材不足の解決につながるだけでなく、ケアの質がアップすることも分かりました。これを業界スタンダードとするというのが社長の考え。導入のサポートもしています」（木戸岡さん）

売れても同社が儲かるわけではない。随時、受け入れている視察・見学は8月で100件を超えた。「センサーのアラートの設定は定員の1割以下が目安」「導入直後は、教育スタッフが2週間張り付きOJT」など導入にあたっての細かなノウハウも惜しみなく教授している。今後、導入は増えるとみている。

「ぜひ、見学にいらして下さい」（木戸岡さん）

アズハイムは2004年の設立。首都圏で介護付きホーム15カ所を運営。植村社長は全国介護付きホーム協会副代表理事。10月17日には「アズハイム練馬ガーデン」でセミナーを開催する。5社限定。無料。問い合わせは、03・5501・1881。

別々のメーカーの製品がつながっているのは珍しい



スマホサイズが、業務中、常に持ち歩くには便利という

カナミックが東証一部上場
医療・介護ユーザー8万人に

山本社長が鏡開き

クラウドによる医療・介護向けシステムのカナミックネットワーク（山本拓真社長）は13日、東証一部上場したことを記念し、都内でパーティを開催した。

山本社長はあいさつで、介護事業のソフト会社では唯一の一部上場会社。医療・介護・子育て分野のIoTの利活用でさらに使う人の拡大を図りたい」と語った。

同社は2016年に東証マザースに、2018年7月に東証1部上場。

もともと介護事業者向けのソフトをASPで提供していたが、柏市の地域包括ケアのモデル事業では、システム開発を行った。現在では医療・介護事業者のユーザーは8万人を超える。

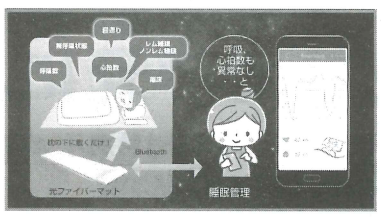
今年からは旭川医科大学とIoTセンサーを使った安否確認やオンライン診療、テレビ会議システムを使った情報共有などIoT技術を使った地域包括ケアモデル構築の共同研究講座を開設している。

製品フラッシュ

光ファイバーで睡眠情報を管理
レッツコーポ

レッツコーポレーション（名古屋市、後藤益巳代表取締役）は睡眠管理システム「心肺元気」を発売した。

光ファイバーを搭載したマット型センサーを枕の下に敷き、利用者がその上で寝れば、自動的に無呼吸検知、いびき検知、呼吸数、心拍数、寝返りなどを記録する。光ファイバーは電磁波・静電気を発生しない。



Bluetoothを用いて、モバイル端末で睡眠データを確認でき、無呼吸状態などの異常時にはアラートで通知。無呼吸やいびきを検知すると振動機が作動し、利用者の姿勢を変えさせる。

オプションとして、ルートウェイを使用すれば遠隔地でも利用者の睡眠情報が得られる。パソコンで多人数のデータの管理も可能。外形寸法は750×191×1・5mm、重量約400g。年間販売目標は1万台。参考価格9万8000円（税抜）。052・201・6230

軽失禁パッド リニューアル発売
リブドゥコーポ

リブドゥコーポレーション（大阪市、久住孝雄代表取締役）は10月10日から、大人用軽失禁パッド「リフレ超うす安心パッド」をリニューアル発売する。

弱酸性さらさら素肌シートを採用し、従来品よりも肌との接着面積を20%ダウン。

吸収後もさらっとしたつけ心地が一層続くとともに、素肌と同じ弱酸性で肌トラブルを防ぐ効果をアップさせている。吸水量25～300ccまで8種類。オープン価格。

0120・271・361